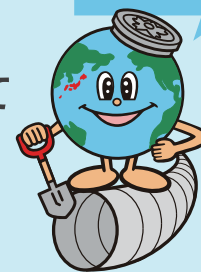


下水道管はどこを通っているのだろう？

汚水おすいますや雨水うすいますを通ったあと、下水は、道路の下にある下水道管かんに集まり、水再生さいセンターまで流れていきます。水再生センターに近くなると、たくさんかんの下水が集まり、下水道管が大きな下水道管は下の図のように、街の下にあみの目のように張りめぐらされています。

下水道をどのように管理しているの？

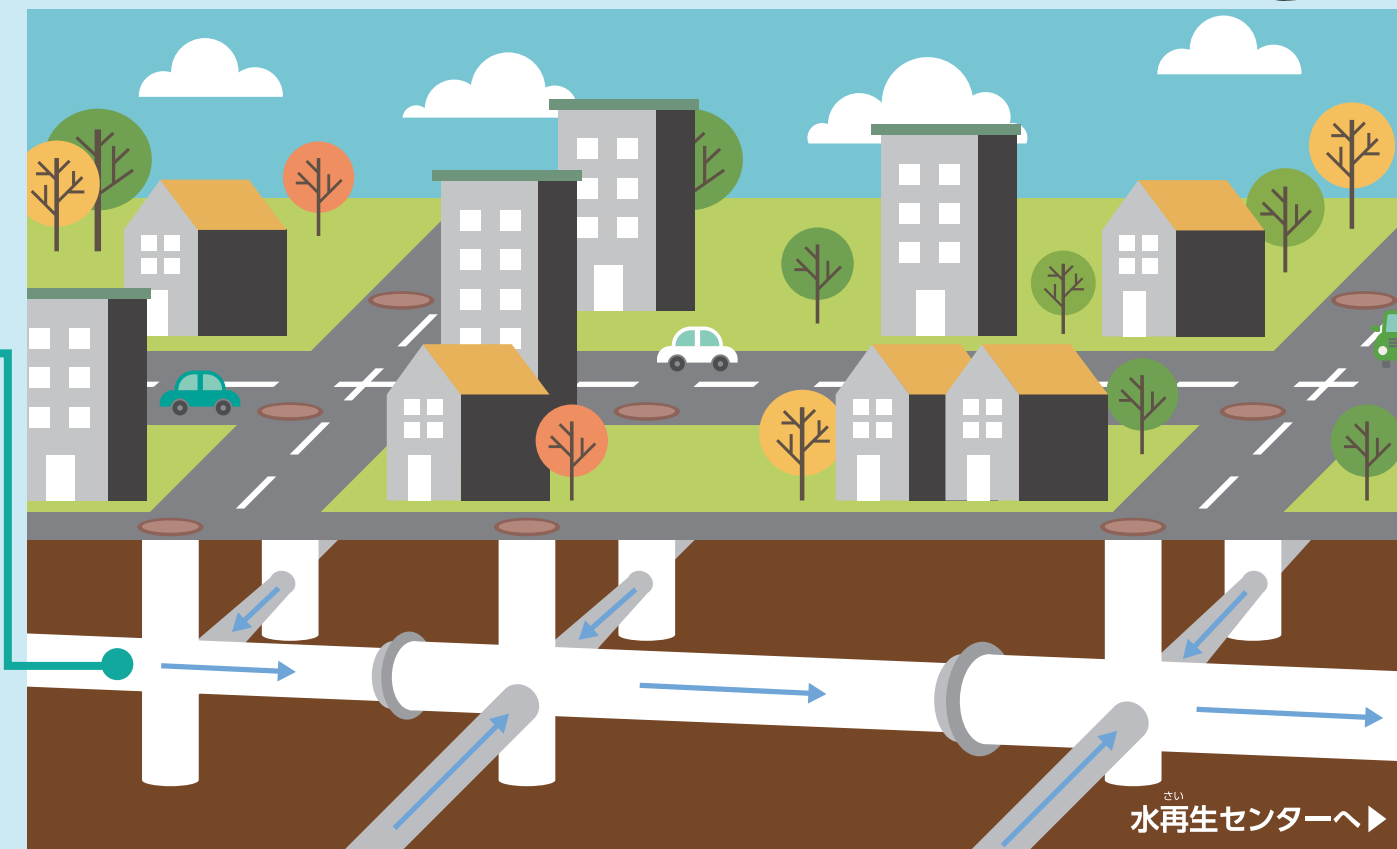


生センターまで流れていきます。

下水道管の中には、最大で小学4年生縦に6人分すっぽり入る大きさのものもあります。



中野区から杉並区まで通っている和田弥生幹線
※小学校4年生の平均身長(令和3年度学校保健統計調査速報から)



下水道管を守る

▶下水道管の中にどろやゴミがたまると、下水の流れが悪くなったりあふれたりする原因となります。また、下水が流れないと悪しゅうの原因にもなります。下水が水再生センターまで流れるように、点検やそうじをしています。



下水道管を点検しているところ

▼下水道管に油を流すと、油が冷えて固まり、つまりや悪しゅうの原因となります。また、大雨が降った時、固まった油が下水道からはがれてオイルボールとなり、川や海に流れて水かん境をよごしてしまうことがあります。



油でつまりかけた下水道管の中



オイルボール

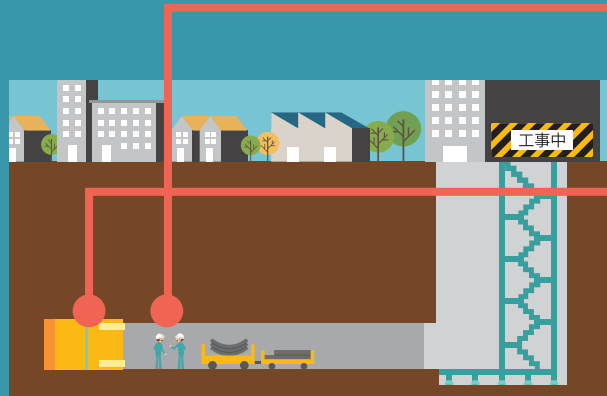
下水道管をつくる

下水道管は、道路をほって管をうめたり、地下にトンネルをほって中で管を組み立てたりしてつくります。また、古くなった下水道管をつくり直す工事もしています。



大きな機械で、地面の中を、モグラのようにほっていきます。

コンクリートのブロックを機械で組み立てて、下水道管の形にしていきます。



下水道局の浅香さんのお話



下水道管がこわれたりつまったりしないように、マンホールの中に入って、調査や清そうを行なっています。直径80cm以上の大きな管は人が入って点検し、小さな管は専用のカメラを管の中に入れてパソコンで確認しています。下水道局で働いている人たちは、下水道を大切に守っています。今から130年前の明治時代に

作られたレンガの下水道管が今でも使われているところがあります。みなさんも油やごみを下水道に流さないようにして、大切に使ってください。



水再生センターに流れていった下水はどうやってきれいになるのだろう？

